

2026年1月4日午前10時30分

降誕節第2主日 主日礼拝

司会 楠元 桃
奏楽 徳江由利

讃美歌・詩編交誦・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のまき)

前奏

招きのことば 詩編 149:1-5

讃美歌 208「主なる神よ」

交誦詩編 89:1-5(P.101/97)

一 同

祈り

司会者

『関東教区お祈りカレンダー』

初雁教会 坂戸いづみ教会 鳩山伝道所
(主の祈り)

讃美歌 366(1,4,5,6)「悔い改めつつ」

一 同

聖書 旧約:ゼカリヤ 8:1-8(P.101/97)

新約:ルカ 2:41-52(P.104)

メッセージ『視点の転換』

祈り

川上 盾 牧師

讃美歌 196「主のうちにこそ」

一 同

献金

(献金感謝の祈り)

信仰告白(インドネシアの信仰告白①)

一 同

頌栄 366(7)

祝祷

後奏

報告・紹介

＜招きのことば＞ 詩編 149:1-5

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。イスラエルはその造り主によって喜び祝い、シオンの子らはその王によって喜び躍れ。踊りをささげて御名を賛美し、太鼓や豊琴を奏でてほめ歌をうたえ。主は御自分の民を喜び、貧しい人を救いの輝きで装われる。主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み、伏しても喜びの声をあげる。

『1月礼拝当番』 伊藤普史 徳島恵子
村上直子 斎藤眞理子
横田喜一 横田こずえ

『今週の集会・行事』

◎ 本日礼拝後 うどん食堂 1月定例役員会
◎ 7日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈祷会
◎ 9日(金) 10:00 会堂清掃 C組

『次週の主日』

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『水を通して救われる』

聖書: 旧約:出エジプト 14:15-22(P.116)

新約:マルコ 1:9-11(P.61)

讃美歌 277(1-3), 277(4-6), 404, 312(5)

交誦詩編 36:6-10(P.43/39)

司会:岡安茂能 奏楽:川名ひさ子

『予告』

◎ 婦人会例会 1/15(木)10:30

◎ 群馬地区教会協議会 1/18(日)15:30

内容: 兼牧について学び語り合う／高崎教会

『報告』

◎ 2026年、あけましておめでとうございます

今年 2026 年は、教会創立 140 周年を迎える年となります。7月には記念礼拝、140年記念誌の発行、また 2026 年度内に記念行事等の計画を役員会を中心にこれから立てていきます。またそれに合わせて、老朽化している教会礼拝堂の屋根修繕にも取り組むことも話し合われています。これは単年度ではなく、何年かかけて募金も集め取り組むことになるでしょう。これから皆さんに様々なにご協力いただくことが出てくるかと思います。心を合わせて140周年の記念の時を迎えましょう。

◎ 群馬地区教会協議会 (2026.1.18.)

新潟地区より、実際に兼牧による教会活動をしておられる三条教会から牧師・信徒を招き、兼牧の実際について聞き、語り合います。群馬地区でもこれから兼牧の教会が出てくることが予想されます。地区全体でこの課題を担うために学びと意見交換をする協議会です。どなたでも参加できます。15:30 より高崎教会にて。

◎ 教区社会活動協議会 in オキナワ

2月 16-18 日の日程で開催されます。平和を学ぶ施設見学の他、普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会や、辺野古の基地建設抗議の現場も訪れ、2 日目のフォーラムでは力によらない平和を目指す話し合いをする予定です。KKS キャンプもこのプログラムに合流するため、高校生・青年の参加者には、教区より交通費・宿泊費も支援がなされます。〆切が迫っています。詳しくは掲示板の案内をご覧下さい。

『先週の集会』

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝			

『メッセージ』『過ちを改めるところ』

マタイ2:1-12(12月28日)

▼「過ちを改めざる、これを過ちといふ」論語に記された孔子の教訓である。人間は過ちを犯す存在、問題は過ちを犯すこと自体ではない。過ちを犯したこと気に付ながら、改めようとしない、謝ろうとしない、…それが最大の過ちだということだ。▼本人に過ちの自覚がある場合、改めることは難しくはない。しかし過ちを犯した自覚はないのに関係がござりてしまった…そんな時に、その状況を何とかするために改めることができるかどうか…。そこではその人の成熟度が試される。未熟な人間は謝れない、謝れるのは成熟した「おとな」だけである。▼今日の箇所は東の国から来た博士たちの来訪の場面だ。東方で不思議な星を発見し、ユダヤ人の新たな王の出現を予感した彼らは、その王に会うためにエルサレムに向かう。彼らがまっ先に訪れたのは、時のユダヤの王・ヘロデのところであった。▼外国人の彼らにとって、この判断は仕方のないことだ。「新しい王さまが生まれたのなら、きっとエルサレムの王宮だろう…」そう考えたのも無理もない。しかしその常識的な判断が、実は大きな過ちにつながつてしまつてるのである。▼博士の来訪を受けたヘロデは「見つけたら知らせてくれ。拝みに行くから」と言った。実際は拝むためではなく、まだ力弱い幼な子のうちに殺してしまつたためであった。自分の王の位を脅かす人物の出現に不安を感じ、芽のうちに摘みとってしまおうと考えたのだ。▼博士たちは幼な子イエスを捜しあてたが、夢でみ使から「ヘロデのもとに帰るな」とのお告げを受け、別の道を通って帰って行った…と記される。彼らはそこで初めて気付いたのだ。自分たちの判断が間違っていたということを…、「別の道を通って」という言葉は、彼らの生き方が変わられたということを表す。▼これを知ったヘロデは逆上し、ベシレヘム周辺地域の2歳以下の男児を虐殺した。救いを拒み、権力・欲望にしがみつき、どんなもない蛮行に出てしまった。ヘロデは改めなかつた。改めることができなかつたのである。▼ふと気になることがある。イエスはこの悲しい出来事を知っていたのだろうか、ということだ。成長する過程で父・母からこの話を聞き、自分が生まれたことによって犠牲になった幼な子がいたことを知っていたのだろうか?と…。ひょとしたら、イエスのあの「いと小さき者をとことん大切にする」生き様は、虐殺された幼な子のことを思う中から生まれたものなのかも知れない。▼もしさうだとしたら、それもまた「過ちを改める歩み」だと見える。イエスの過ちではない。ヘロデの過ちだ。しかし自分を起点に起こつてしまつた過ちを、改めるための歩みだと思うのだ。▼私たちも「過ちを改めるところ」を見失わないようにしたい。イエスのような大きな働きはできない。しかし少なくとも自分の過ちに気付いたなら、それを改めることはできる。その営みを重ねて行けば、世界は少し平和に近づくのではないか。